

## 人文科学研究科

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本研究科では、人間及び人間社会を対象とする人文諸科学の方法論を極めることにより、自由なしかも批判的精神をもった教養ある専門人の養成を行う。

博士課程前期・修士課程では、基礎学力と旺盛な知的好奇心を有し、新たな知見の創出を目指して積極的に課題に取り組む学生を求める。入学者選抜にあたっては、志望分野に関する基礎的な専門知識や研究に必要な語学力が問われる。また、面接では、研究計画書に基づき、志望分野において主体的に問題を発見し、問題解決に積極的に取り組む能力を持っているかが評価される。

博士課程後期では、博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそうひろげ深めようという向上心・探究心を持つ者を受け入れる。入学者選抜にあたっては、筆記試験、修士論文と研究計画書の内容の精査及び口頭試問により、志望分野に関する深い専門的知識と問題発見能力及び問題解決能力が問われる。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

近年のますます多様化する院生の需要に対応し、社会と地域のニーズに応えるための教育効果・教育効率を考慮したカリキュラムの構築につとめる。例えば、就職先としての教育職や研究職には近年とくに限界が顕著であるので、それ以外の分野の高度専門職業人への道を選ぶ院生のためにも、社会で即戦力となる能力の涵養や育成が必要で、それにむけてのカリキュラム編成をはかる。

また、院生の研究成果の公表の場の確保を行い、『大学院論集』の充実に努め、学会誌、その他の一般の研究雑誌にも投稿するように指導し、他流試合のできる実力をつけさせる。

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

所定の単位を取得し、かつ、厳格な審査によって学位請求論文が合格と判定された場合に課程修了とし、学位が授与される。

博士課程前期・修士課程では、専門分野に関する深い知識に基づいて自らの研究課題を発見し、その問題解決のための方法と独自の見解を論文の形式で表現する能力を身につけているかが学位授与の基準となる。課程修了者には以下のことが期待される。

- ・ 重要な先行研究に関してその内容を十分理解して批判的に検討し、考察することができる。





- ・ 専門分野の文献や一次資料を厳密に読解する能力を身につけている、もしくは、文献資料、一次資料、調査データを分析し、その結果を他の研究者にも幅広く活用可能な資料体として構築できる。
- ・ 問題の本質を熟慮し、その解決方法を提示する論理的な思考力を身に付けている。  
博士課程後期では、専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、研究者としてもしくは高度専門職業人として、自立した独創的な活動ができるかが学位授与の基準となる。課程修了者には以下のことが期待される。
- ・ 当該の専門分野において独創性を発揮し、探求から得られた新たな学問成果を国内外の学会における口頭発表や学術論文によって公表できる。
- ・ 専門分野の研究で得られた知見をふまえて人文科学と社会の関わりを熟考し、問題解決へのアプローチの可能性を人文科学の視点から柔軟に探ることができる。
- ・ 大学等の教育・研究機関に就職し、教育や研究において先導的な役割を果たすことができる、もしくは、高度な専門性を活かすことが可能な機関に就職し、人文科学の視点から社会に貢献することができる。

